全国農業高校

自慢の農産品 買って

高校生が生産 即売会は大盛況

全国の農業高校で栽培されている農産物や加工品を展示即売する「全国農業高校収穫祭」（毎日新聞社、全国農業高等学校長協会主催、大丸松坂屋百貨店共催、農林水産省後援）が11月15、16の両日、大丸東京店で開催された。45校が参加し、今年が6回目。首都圏の秋の風物詩に定着しそうなイベントだ。両日とも多くの来場者でにぎわい、高校生たちは呼び込みや販売に大忙しだった。

農 and 食

初日の15日は午前10時半から、会場である大丸東京店12階レストランフロアで開会式が行われ、昨年の収穫祭で「大丸東京店賞」を受賞した長野県須坂園芸高校の代表が元気よく開催宣言した。

会場はJR東京駅に直結していることもあり、午前11時の開場前に客が並ぶなど、途絶えることのない入場者でにぎわった。

ジャムや米などを並べたブース前で愛知県立安城農林高校食品科学科3年、花井佑理子さんは「安城は全国一のイチジクの生産地なので、イチジクジャムも用意しました。東京でも喜んでもらえると思います」と話していた。

また、農産物やヒノキでつくった筆立てなどを販売していた長野県木曽青峰高校森林環境科3年、原安門さんは「人気があるのは地元特産のアカタツやシイタケなどの乾燥野菜です。調理法などもご説明して、買っていただいています」と接客に追われていた。

「買い物にきたら即売会をやっていたので」という東京都世田谷区の主婦(54)は「ジャムがおいしそうだったので買いました。高校生は元気があっていいですね。若返った気がします」。

福井県立福井農林高校生産流通科3年、三ッ田佳乃さんは「予想以上にお

みそや古代米などが売れています。地元のおいしいものを広められればと思っています」と話していた。

熊本県立菊池農業高校生活文化科3年、坂本侑莉花さん、食品化学科2年、小川海南子さん、園芸科2年、清田実玖さんの3人は「他校もがんばっているので、私たちも負けないようにがんばりたい。思っていたより売れるのでうれしいです」と口をそろえた。

会場を提供した大丸東京店営業3部、長谷村裕司さんは「全国の高校生が元気よく販売してくれてうれしいですね。お客様からは『出身地の高校が来ていてなつかしい』というお話を聞きました。高校生の思いが込められた商品であることが伝わってきます」と話していた。

今年も会場には投票箱を設置。お客様に優れていたと思う高校を投票してもらった結果、「お客様賞」には新潟県立長岡農業高校が選ばれた。このほか、大丸東京店賞に群馬県立利根実業高校が、毎日新聞社賞に長野県須坂園芸高校が選ばれた。

西阪義晴・大丸東京店長のコメント

自分たちが作った「もの」を自分たちで販売することにより「もの作りへの思い」が強く、深く伝わり、多くのお客様が感激されていました。高校生の熱心な姿を拝見し、ほほ笑ましく思うと同時に、私たちも小売業の使命として「価値ある商品」、その良さをしっかりとお客様にお伝えしていかなければいけないと心を新たにいたしました。

「私も福島出身なの。がんばってね」と言って、ジャムを買ってくださったお客様がいました。とても励みになりました。
福島県立修明3年
鈴木優香

イベントを通じて人間的に一回り大きくなれたと思います。農業高校に入ってよかったと、心から感じました。
群馬県立利根実業1年
中村朱里

アイスクリームの販売をして、お客様から「おいしかったよ」と言っていただき、充実した体験ができました。
岐阜県立岐阜農林3年
松久優海

1年生だけでの参加だったので不安でしたが、本校の卒業生や秋田県出身の方が来てくれて、ジャムなどを買ってくださり、とてもうれしかったです。
秋田県立大曲農業1年
坂本彩香

何人ものお客様から「私も山形出身だよ」と声を掛けていただきました。商品に興味を持ってくれる方も多く、いい経験でした。　山形県立村山産業3年
大田真由

お客様が「がんばってね」と言って、商品を買ってくださいました。　富山県立入善2年
小林萌花

お客様がうれしそうに購入してくださる姿を見て、接客業っていいなと思いました。
福島県立安達東3年
武藤さやか

お客様にたくさん声をかけていただきました。貴重な体験でした。　福島県立磐城農業2年
大平瑠果

お客様からご要望もいただいたので、商品開発に生かしたいと思います。　北海道名寄産業2年

途中からPOPを出すなど工夫しました。2年連続で賞をいただくことができてうれしかったです。
長野県須坂園芸3年